

第22群 悪性腫瘍 II (127~131)

127. 子宮頸部小細胞癌の問題点

(国立病院四国がんセンター)

日浅 毅, 千葉 丈
富岡 尚徳, 正岡 尚

目的：子宮頸癌の WHO 分類では10~20%が小細胞癌と診断されている。しかしその大部分が扁平上皮癌の未分化型であるため、角化型・大細胞非角化型と比較してもそれらの予後は大同小異である。しかし肺癌分類法を用いて組織分類した子宮頸部小細胞癌は他の扁平上皮癌とは臨床的な経過において明らかに異なる。従ってこの型の子宮頸癌は肺癌と同様の診断基準で別のカテゴリーに分類されるべきものとする。

方法：当院で小細胞癌と診断された浸潤癌のうち扁平上皮型の小細胞癌を除外した肺癌型小細胞癌10例についてその組織像・予後および臨床的特徴を検討した。

成績：1966年より1982年までに当院で広義の扁平上皮癌と診断された Ib 期以上の子宮頸癌は1,240例である。そのうち角化型又は大細胞非角化型は1,097例(88.5%)、いわゆる小細胞非角化型は143例(11.5%)であつた。5年経過した874例の5年生存率はそれぞれ66.1%, 73.6%であり、むしろ後者の予後がやや良好であつた。これら小細胞型のうち肺癌型小細胞癌は10例(0.8%)であり、リンパ球相の小型細胞で極めて未分化な組織像を呈する。その予後は8例が早期に再発死亡、最近の1例も再発を来しており、1例のみが5年以上健康生存している。また放射線の感受性が良好であつたが早期に肺転移を来し死亡した症例もありこの点からも肺小細胞癌との類似性が示唆された。

独創点：肺癌分類による小細胞癌の概念を導入し子宮頸癌を組織分類すれば臨床像の共通点が得られる。また治療法は局所および全身治療—放射線療法と化学療法—の併用が必要である。

質問 (東北通信病院) 東岩井 久

1) 御発表の頸部小細胞癌はいわゆる Oat cell carcinoma と同じものを指しておられますか。

2) 子宮頸における Histogenesis をどのようにお考えですか。

3) Carcinoid との鑑別が重要と思われそうですが検討しておられますか。

質問 (信州大) 福田 透
放射線感受性が良好であるのに、予後が不良との事

ですが、現時点における治療法として、どのようなものがベストと御考えでしょうか。

回答 (国立病院四国がんセンター) 日浅 毅
東岩井先生の1), 2) に対して

1) 子宮頸部小細胞癌の origin は当院においては結論は出ていないが、肺癌分野では Kalchitzky 細胞由来と考えられている。

東岩井先生の3) に対して

2) カルチノイドは当院では診断された症例はない。しかし今後検討されねばならない。

福田先生に対して

3) 化学療法は COMP 療法が有効であり、MMC, BLM は無効である。

128. 子宮癌の浸潤、転移に関する HIGH RISK 因子の研究

(信州大)

石井 淳, 塚原 嘉治, 酒井 義公
塩沢 功, 野口 浩, 福田 透

子宮頸癌の浸潤、転移に関する High Risk 因子を明らかにすることを目的として、前回の Virchow 節転移陽性例および骨盤リンパ節転移陽性例に関する検討成績をふまえ、今回は、骨盤リンパ節転移陰性例ならびに5年予後の判明している放射線例(5年以内死亡例, 5年生存例)についての検討を行なった。

① 骨盤リンパ節転移陽性例64例, ② 対照例として転移陰性例99例, これら手術例と同様進行期 Ib, IIa, IIb に該当する放射線治療例として, ③ 5年以内死亡例30例, ④ 対照例として5年生存例92例を対象とした。対象とした各2群間の平均年齢はほぼ同様である。婦人科癌で、血沈はその重要性が再認識されているが他に熱型, CRP を含めた臨床的パラメーター、および原発巣の組織学的状況として、教室で試行している組織構築像を考慮した組織型, CPL 分類, 間質反応, 癌細胞の大きさ, 間質との結合性, 間質の幅の6項目を中心に比較検討した。

結果、臨床的パラメーターで1項目以上の陽性所見を認めた症例は、① 転移陽性例81.3%, ③ 死亡例85.7%で対照例②, ④に比し何れも優勢を占めた。組織学的状況では転移陽性例, 死亡例で、組織型の Lobular 及び Comedo pattern (①76.7%, ②48.5%, ③70.4%, ④37.8%), CPL 分類 L 型 (①57.1%, ②

6.0%, ③33.3%, ④11.0%), 間質との結合性で疎を呈するもの(①89.3%, ②14.1%, ③77.8%, ④28.1%)が有勢を占めた。これら High Risk 因子として特に重要と考えられた項目に対し, 0点から最高3点までの点数配分を行ない合計点により各群の比較検討を試みたところ, ① 5.9 ± 1.6 点, ② 2.7 ± 1.5 点, ③ 6.2 ± 2.6 点, ④ 2.8 ± 2.1 点となり, 各々2群の間に明らかな有意差を認めた。従つて今回取り上げたこれら因子は, 予後不良例の抽出に役立ち得るものと考えられた。

質問

(大阪医大) 植木 実

このお仕事は, 術前にリンパ節転移の有無を術前に知るためにされたようですが, 内容は手術した標本でなさっていますので, はたして術前に予測が何で可能なのでしょうか。

回答

(信州大) 石井 淳

検討した材料は, 治療前生検を用いており摘出物組織所見と略同様の所見であることを確認している。

臨床進行期で一番有意差を認めているが, 今回は進行期を加味しなくても対照例との間に明らかな有意差を得ている。

129. 子宮頸癌リンパ節転移症例の予後に関する検討

(国立がんセンター)

種村健二郎, 山田 拓郎, 恒松隆一郎
近江 和夫, 松本 よし, 園田 隆彦
笠松 達弘

昭和40年から11年間に施行された広汎性子宮全剝663例のうち172例にリンパ節転移を認めた。扁平上皮癌の術後照射例 I 期68例, II 期43例を対象とし, 臨床的に再発を認めた症例は I 期27例, II 期11例で, 剖検例の I 期9例, II 期7例も検討に加えた。

1) リンパ節転移症例の5生率は I 期57.4%, II 期65.1%であつた。外腸骨節或いは閉鎖節転移症例の5生率は I 期62.0% (31/50), II 期74.2% (23/31)で, 更に傍結合織浸潤を合併した外腸骨節・閉鎖節転移症例では I 期20.0% (3/15), II 期69.2% (9/13)と, II 期の予後は I 期に比し明らかに良好であつた。

2) 扁平上皮癌を Keratotic, Parakeratotic, Non-keratotic の3者に分類した。I 期II 期共に Kera. 12%, Parakera. 44%, Nonkera. 44%と頻度分布に差を認めなかつたが, 外腸骨節・閉鎖節転移症例では, 予後良好な Parakera. の頻度が II 期にやや高率に認められた。I 期II 期の同一組織型内での予後は3者共に II 期の予後がやや良好であつた。

3) 再発症例では, その初発部位は I 期70.4%が遠隔

転移であるのに対し, II 期の72.7%は局所再発であり, 両者は全く異なる再発型態をとつた。

4) 剖検例では I 期の全例に遠隔転移を認め, そのうち66.7%は遠隔転移のみであつた。II 期では全例に局所再発を認め, そのうち28.6%は局所再発のみであつた。I 期の66.7%は局所制御なされたにもかかわらず遠隔転移で死亡し, II 期全例は局所制御をなさぬまま死亡していた。

術後照射治療を加えたリンパ節転移扁平上皮癌症例は組織型の頻度分布に有意差を認めないが, 傍結合織浸潤を合併する進行例の I 期の予後は II 期に比し明らかに不良であり, 再発初発部は I 期に遠隔転移, II 期に局所再発が高率に認められ, I 期剖検例には高率に遠隔転移のみで死亡が認められた。

質問

(山梨医大) 岩井 正二

リンパ節転移陽性例については二期が一期より5年生存率が良いということは普通には考え難いことである。当該癌の生物学的特性を考えないと説明できないのではないか。

質問

(国立福山病院) 平林 光司

演者のお考えは, I 期のような局所の癌が小さいにも拘らずリンパ節転移をおこすような癌は癌としてもより悪性で担癌生体の方も応答不良があるから遠隔転移が多く予後が II 期よりも悪化したのだと思う。さてそのような I 期で遠隔再発した例では, 組織学的に何か特徴がありましたか。

回答

(国立がんセンター) 種村健二郎

岩井先生の質問に対して

① 原発病巣が小さいにもかかわらず, リンパ節に転移する症例の予後は不良で, これらは遠隔転移を高率に認められる。原発病巣が小さくてリンパ節転移を有することは, 癌に対する抵抗性が小さいためであろうかと推測している。

平林先生の質問に対して,

② I 期リンパ節転移症例はリンパ管侵襲像を示すことが多い。

追加

(大阪・北野病院) 藤原 敏郎

リンパ系の経路をしらべていると, 頸部から骨盤壁の方向にむかつてかなり太い肉眼的に見られるリンパ管がある。これを見ると初期癌から進行するとき案外この様な系路で paracervical の部分を素通りして拡がる可能性があるのではないかと考える。若しそうなら御発表の様な成績もうべなえる。さらに之を考えると初期癌に対する拡大単剝というような手術は果して